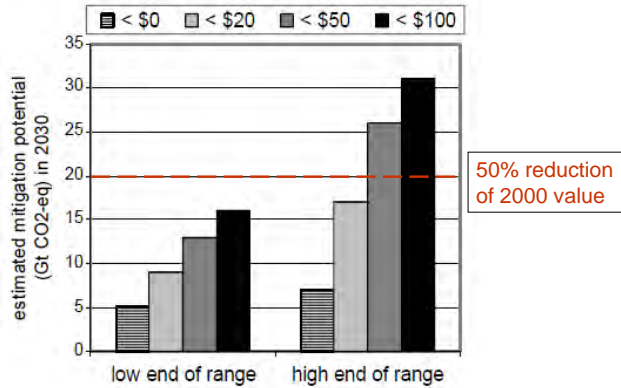


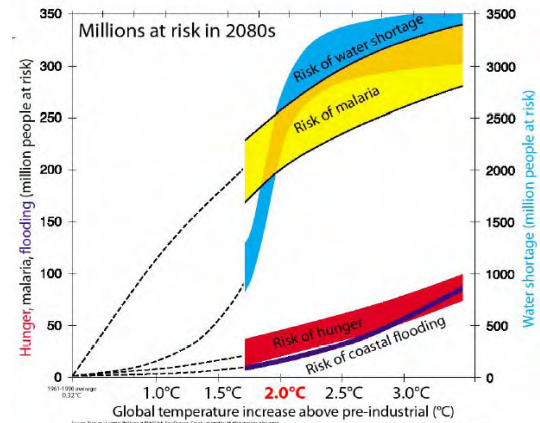
WGIII 報告書

- ・ 大気中のGHG濃度は利用可能な技術と政策の組み合わせで安定化可能である



2. 温暖化の危険な水準と削減目標

Millions at Risk (Parry et al., 2001)



2.(2) わが国に対する影響予測

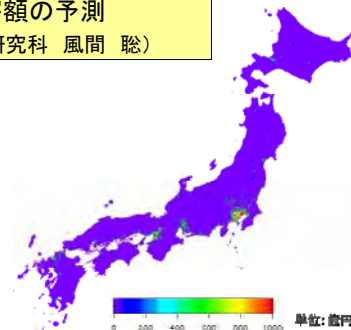
全国浸水被害額の予測 (東北大学環境科学研究科 風間 聡)

全国氾濫シミュレーション
土地利用別原単位の推定

豪雨の増加による被害額の増加(億円)

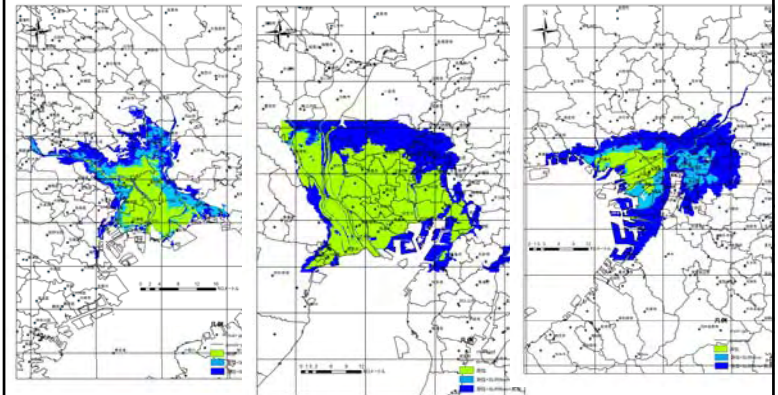
再現期間	農地	建物用地	公共施設	総被害額
100-50year	1,834	79,524	134,713	216,071

再現期間100年の確率降雨に対して、新たな対策費用として必要と考えられる期待額は約22兆円と見込まれる



(引用不可)

3大都市圏における海面上昇と高潮の潜在的危険地域 (茨城大学工学部 三村信男・桑原祐史)



東京圏

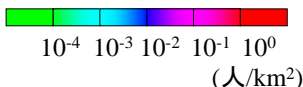
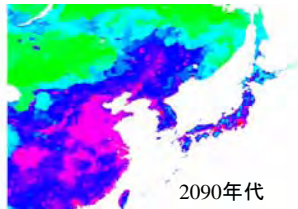
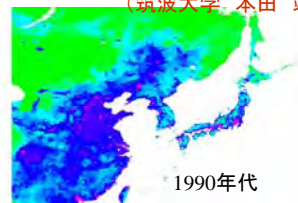
名古屋圏

大阪圏

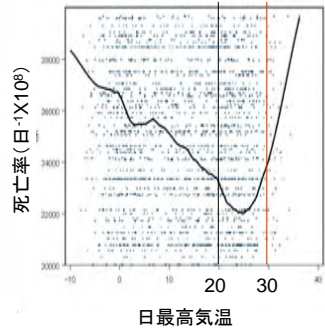
(引用不可)

気温上昇による超過死亡数の変化

(筑波大学 本田 靖・国立環境研 小野雅司)



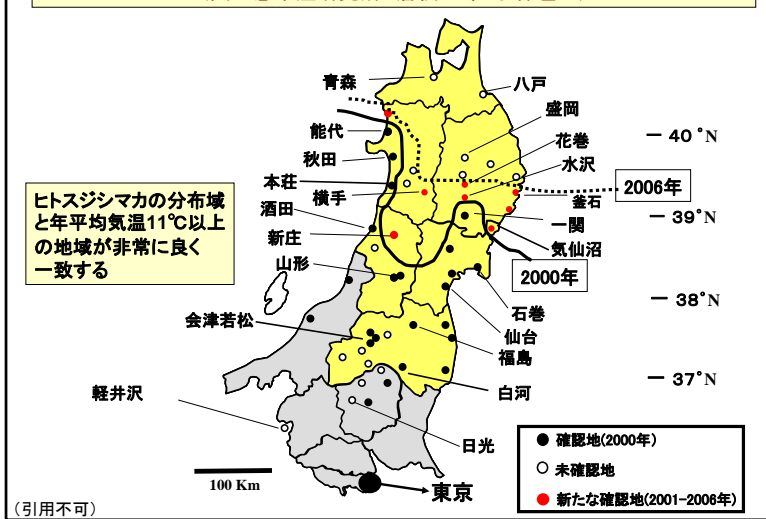
リスク関数



(引用不可)

東北地方におけるヒトスジシマカの分布

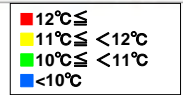
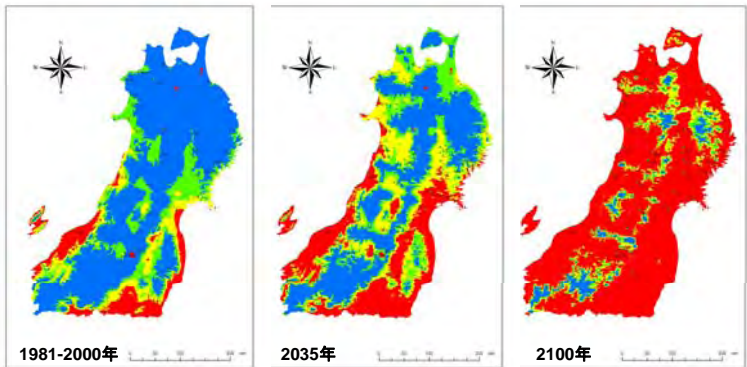
(国立感染症研究所 倉根一郎・小林睦生)



(引用不可)

気温の上昇に伴うヒトスジシマカの分布域拡大予想

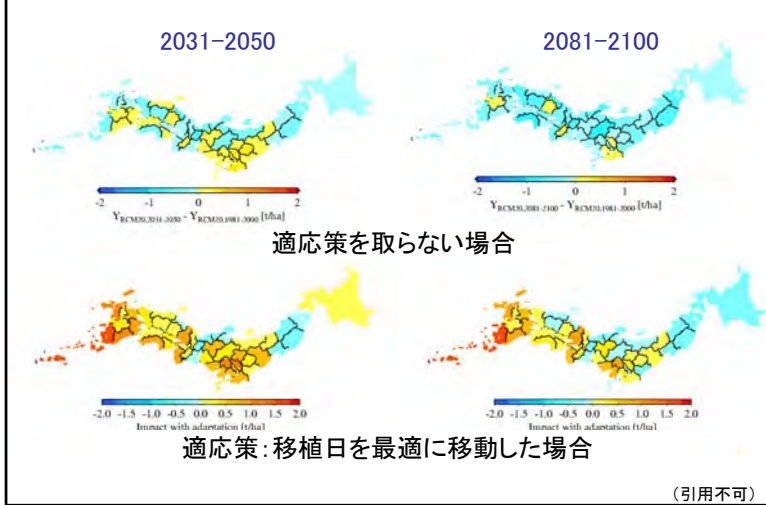
(リスクエリアの拡大)



(引用不可)

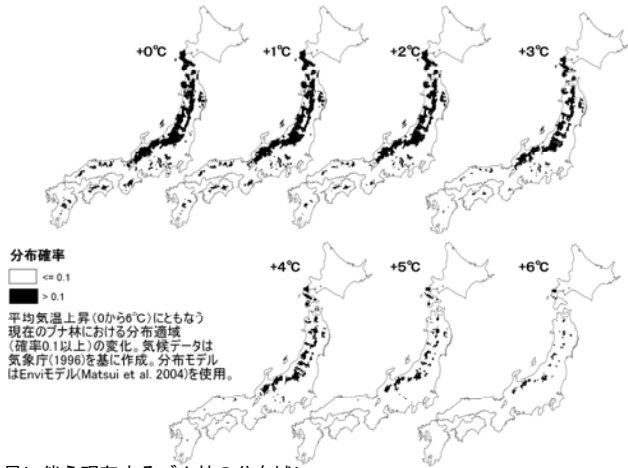
稲作に対する影響

(農業環境研究所 横沢正幸・西森基貴)



(引用不可)

気温上昇のブナ林への影響 (森林総研 田中信用)

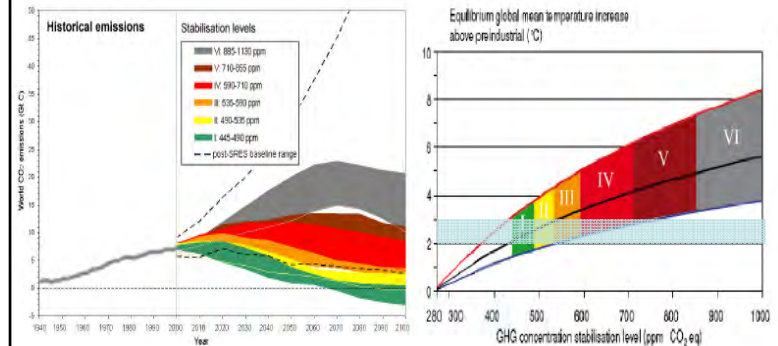


気温上昇に伴う現存するブナ林の分布域における分布確率が0.1以上の地域の変化

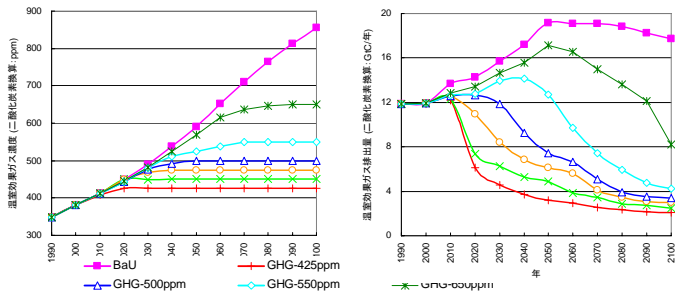
(引用不可)

2.(2) 気温上昇とGHG安定化濃度

平均気温の上昇が1990年レベルから2 ~ 3°Cの場合、全ての地域で経済に悪影響が発生



安定化濃度と排出pathの関係 (国立環境研究所 原沢英夫・肘岡靖明)



- BaU: SRES B2シナリオ
- 475ppmに抑えるためには、全GHGの排出量を1990年比で2020年で約10%、2050年で約50%、2100年で75%削減しなくてはならない。

3. 温暖化対策としての適応策

- 温暖化対策: 排出削減策(緩和策) 適応策
- 完全な温暖化防止は不可能
- 温暖化影響に対する国際世論の高い関心
 - 2003年 ヨーロッパの熱波
 - 2004年 洪水と干ばつ
 - 2005年 ハリケーン・カトリナ
 - 2006年 日本での梅雨長期化、中国・韓国の豪雨
 - ヨーロッパの熱波
 - 2007年 EU理事会
 - ハイリゲンダムG8サミット